

ようこそ！当別移住第1号

(10月17日)



町は、今年度から首都圏を含め道内外の住民を当別町に呼び込もうと「当別移住促進事業」を実施し、このほど第1号の移住者が決まり、役場に挨拶に訪れました。

移住第1号となったのは、茨城県ひたちなか市の伊藤さん御夫妻で、「自然豊かで景観も良く大都会に隣接する住環境の良さと、なにより町民の優しさを強く感じ当別への移住を決めた」ということです。

泉亭町長は、記念品としてご夫妻が移住するスウェーデンヒルズに最も近い所で生産された「ふとみ湯田里^{ゆったり}ファーム」の阿部さんのお米を贈呈し2人を歓迎しました。

また10月11日には、官民協働の移住者促進を進めていこうと、町内の関係団体が集まり、「当別移住促進協議会」が設立されました。

タウン

トピックス

Town Topics

広報誌で紹介した写真またはデータを希望者に提供します。

お申し込み

情報課広報広聴係

TEL 23-3069



しばたやま

芝田山親方 相撲人生を語る

(10月7日)



「当別ロータリークラブ」が創立30周年を記念し特別講演会を開催しました。講師には、芽室町出身で元横綱大乃国の芝田山康親方を招き、会場の「ゆとろ」に約200人の町民が来場し講演に聞き入りました。

親方は相撲界に入った頃の厳しかった稽古や親方になってからの弟子の様子など、時代と共に相撲界の移り変わる様子を巧みに話し、会場を盛り上げました。

翌日には、ロータリークラブの記念式典も行なわれ、会員は、地域社会に根ざした奉仕活動を続ける決意を新たにしていました。

歓声がこだまハロウィン子供まつり

(10月8日)



自由市場実行委員会が主催して、子供たちにおばけ祭りを通して楽しいひとときを過ごしてもらおうと「ハロウィン祭り」を開催しました。

来場した子供たちは、当日配布された子供縁日フリーパス券を手にとり輪投げや射的に何回も挑戦し「当たった、外れた」などと歓声を上げていたほか、おばけ衣装コンテストでは、マントや帽子など手作りの衣装で上手に変装していました。会場には、かぼちゃを切り抜いて作られたハロウィンがトラックに飾られ、家族で訪れた人が記念写真を撮る姿がありました。

町長の日記

17年10月22日(土)

明日、アメリカのワシントン近くのハーシーと云う町へ行くことにした。

3年くらい前にロイズの山崎社長さんからハーシーの町を一度見てはどうかと薦められていたのでやっと行く決心をして廻りの人に声をかけたら5~6人のみち連れが出来た。

100年ほど前にチョコレート事業で成功したミルトン・ハーシーと云う人が利益を徹底して故郷に奉仕して町の名前もハーシーと呼ぶほどになったと云うから大変興味深い。

アメリカでは有名人の名前の飛行場や公園、道路は沢山あるが、学校や博物館、交通機関をはじめ一つの町の必要な施設を丸ごと企業が作ったのは珍しいと思う。

昔、進駐軍が日本に持って来たのがハーシーのチョコレートだったと云う話だが、私はチューイングガムしか知らなかった。

ある時、同級生がチューイングガムを学校に持って来た。口で“プー”と膨らませるのが珍しくて「半分僕に頂戴」とねだって口の中を貰った覚えがある。

それからまもなく子供達はみんなガムを口にするようになったが、チョコレートは大分後になってからだったような気がする。

その頃、アメリカではチョコレートで巨万の富を築く人がいたことになる。そしてその富を自分の故郷の為に使うと云うのは宗教的な考え方からだけなのだろうか。日本でも行政と住民が協働でまちづくりが真剣になってきたので良く見て来たい。

成田を昼の11時頃に出発して、ワシントンまで13時間くらいかかるが地球を東へ向うので日付変更すると同じ日の昼の10時頃に着くことになり、出発した時より逆に1時間前に着くことになるから面白い。

ワシントンから飛行機で1時間くらいの所にハーシーの町があるが、孫達に電話して昼と夜がまるきり反対のことを理解させられるかどうか楽しみだ。

当別町長泉亭俊考

防災の心得を伝授 山口さん講演

(10月9日)



災害救援ネットワーク北海道代表の山口幸雄さん(茂平沢在住)が、六軒町町内会で、防災講演会を行いました。山口さんは、各町内会ごとに防災の講演をしており、この日は、「敬老会」に集まったお年寄りに、災害時には地域で助け合うこと、日頃から災害時に困らない準備をしておくことが大切なことなど分かりやすく説明しました。お昼には、地域のボランティアの方が、山口さんの指導で炊き出し用の炊事釜でカレーライスを作り参加者全員で試食しました。

また、同ネットワークが旧中小屋中学校を「災害防災備蓄センター」として活用することになり、10月23日にオープニングパーティが開かれました。

シルバー人材センターが10周年

(10月22日)



当別町シルバー人材センターが創立10周年を迎え、西当別コミュニティーセンターで、記念式典が行われました。平成7年に「当別町いきがい人材センター」として設立された同団体は、平成14年に北海道知事から社団法人の認可を受け、草刈りや屋根の雪下ろし作業などを通して地域社会に貢献してきました。

下段寿之会長は「これから超高齢化社会が到来するが、多くの高齢者の経験と能力を生かして活動していきたい」と式辞を述べ、参加者全員で10周年の節目を祝いました。